



(公財) 兵庫県国際交流協会主催

うちの教室こんなことやってます！
**兵庫県地域日本語教室
実践持ち寄り会**



2025年 1月18日 土曜日

13:30～16:00

国際健康開発センター 2階

多って話しましょう！



－ 実践持ち寄り会 －

県内で活動する8団体が、それぞれの地域日本語教育に関する活動について、ポスター発表を行いました。

発表団体の関係者や、発表を聞きに来た兵庫県内の日本語教室支援者、兵庫県での取組について関心を持ち県外から来てくださった方など、様々な参加者が、活動に対する思いや教室の情報を交換しあう活気にあふれた会となりました。

この資料では、当日各団体が発表した実践内容についてご紹介します。

兵庫県地域日本語教室 実践持ち寄り会

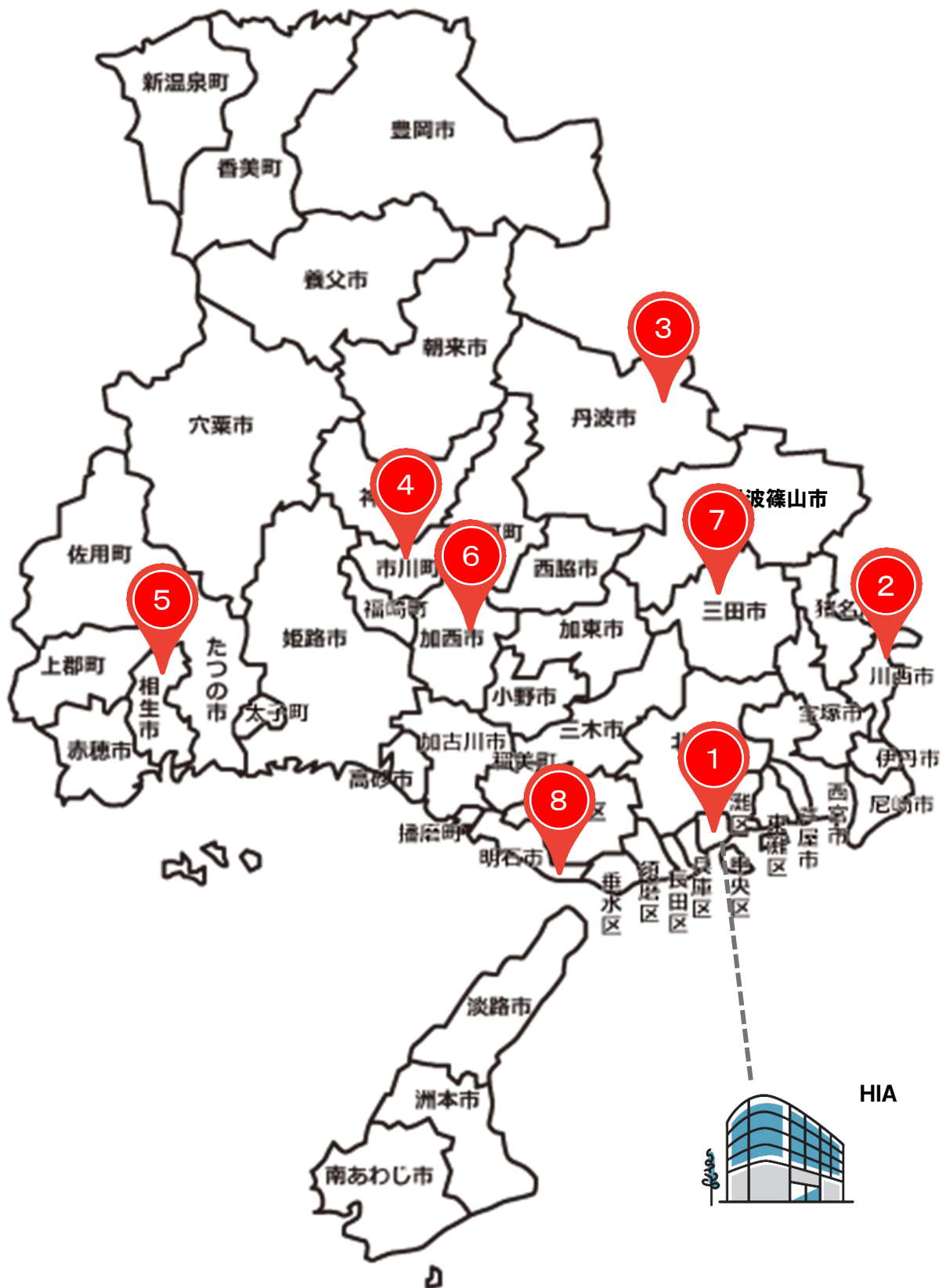
— 発表団体リスト —

グループ	No.	教室名	発表テーマ
A	1	マサヤンタハナン (神戸市中央区)	マサヤンタハナンは学べる楽しい家
	2	東谷みんなで楽しくにほんごひろば (川西市)	川西市でつなげる日本語支援の輪！～子ども編
	3	春日日本語教室ようこそ (丹波市)	ニーズに合わせたタイプ別支援
	4	市川町日本語教室 (市川町)	地域と外国からの人々を繋ぐ架け橋に
B	5	相生市日本語教室 (相生市)	いろいろな形での日本語教室
	6	加西市国際交流協会日本語教室 (加西市)	日本語学習と生活をもっと楽しく！
	7	日本語サロンさんだ (三田市)	つながる ひろがる 多読の時間
	8	明舞日本語教室 (明石市)	明舞地域における日本語教室の在り方

— 会場図 —



発表団体の活動地域



1

マサヤンタハナンは学べる楽しい家 Masayang Tahanan

活動の場所

海外移住と文化の交流センター(神戸市中央区)

団体／教室の
特徴やポリシー

学習会(日本語クラス・子ども学習・パソコンクラス・介護の基礎・子どもの母語クラスなど)



マサヤン タハナン
神戸フィリピンコミュニティー団体

にほんご きょうしつ
Nihongo Class

Sunday, 13:15
**Masayang Tahanan
Classes**
Public · Hosted by Masayang
Tahanan

MASAYANG TAHANAN NANAY NIHONGO CLASS
第2・第4 日曜日 / 13:30~15:00
問い合わせ For more informations ➡

2	川西市でつなげる日本語支援の輪！～子ども編 地域と日本語教師の会@川西 「東谷 みんなで 楽しく にほんごひろば(みんなにち！)」 ＊「みんなで=inclusive」「楽しく=diversity」「ひろば=empowerment」
活動の場所	川西市
団体／教室の特徴やポリシー	(会の活動目的)川西市には、いろいろな国、いろいろな文化の人がいます。私たちは外国につながる人も、日本人も、同じ川西市民として、幸せに暮らすために、なかまと一緒に活動します。 (教室のポリシー) ・教え、教えられる関係ではなく、対等な対話ができる環境をつくる ・子どもたちの学力保障のために、行政×地域×学校との連携をつくる
－ 実践報告 － 川西市では施策として、外国に繋がる児童生徒への日本語支援は行われておりません。そのような中、どのように日本語支援の輪を地域で繋いできたのか、団体発足から現在に至るまでの私たちの3年前の歩みを語ります。 ・2022 年 日本語教師仲間たちと「地域と日本語教師の会@川西」立ち上げ ・2023 年 学校での入り込み支援(外国人児童生徒を受け入れる体制づくり) ・2024 年 川西市市民協働事業「東谷みんなで楽しくにほんごひろば(みんなにち！)」立ち上げ 今、教室に来てくれている子どもとは、以下のようなことをしています。 ・絵本読み聞かせ ・ききとりワークシート ・ボードゲーム ・学校の先生との交換ノート 好奇心、探求心を刺激できる遊びを用いて、子どもたちの中にある「ことば」と「主体性」を引き出していくことを目指しています。 行政×地域×学校との連携を目指して、今まで関わってきた外国に繋がる子どもたちには、DLA アセスメントを行い、学校でのサポートに役立てて頂こうと、レポートを提出してきました。 また、市民対象の多文化共生セミナー、ワークショップも2つ実施することができました。	
他団体に質問してみたいこと：経済的に自立していくためにはどうしたらよいか。	

3

ニーズに合わせたタイプ別支援

丹波市国際交流協会
春日日本語教室「ようこそ」

活動の場所

丹波市春日町

団体／教室の
特徴やポリシー

モットー 「人として同じ」

- ・学習者の希望する支援内容に応え、居場所をつくる
- ・やさしい日本語を推進する

－ 実践報告 －

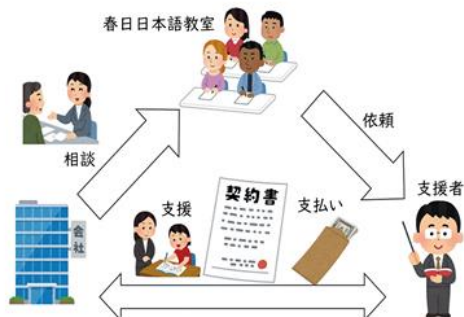
4種類のタイプ別支援

- ① 教室での対面支援：学習者に教室に来ていただいて支援します
- ② リモート支援：端末を使つての遠隔支援です（ちょっとお休み中）
- ③ 教室以外の場所を使つての対面支援：学習者と支援者の都合に合わせた場所での支援
- ④ 出前支援：支援者が企業に出向いて支援します（下記）



教室の様子

〈出前支援について〉



きっかけ

ある企業で働く技能実習生が教室に通っていたが、交通の便が良くないなどの事情から会社の人が送迎をしていた。しかし毎週の送迎も負担であるため、寮に来て教えてもらえないかという相談があった。

内容

春日日本語教室は企業に支援者を紹介する。有料であり、料金・時間・場所等についての契約書を支援者と企業で交わしている。実際の支援内容については支援者と企業・学習者で話し合い決めている。

現状

現在は1社と契約（6名の学習者を来日した年ごとに3グループに分け、2人の支援者で対応している。それぞれ月に1.5時間の支援を3回行っている。）

問題点

就労先企業との認識の相違により、トラブルの可能性もあるため、事前の打ち合わせが重要。
キャンセル料、延長料金の請求や試験対策のスケジュールなどで支援員の負担になる可能性がある。



◀ 支援員や支援希望者の
研修の様子

年2回の
持ち寄りパーティー ▶



4

地域と外国からの人々を繋ぐ架け橋に



市川町国際交流協会 日本語教室

活動の場所

神崎郡市川町役場 4階 会議室

団体／教室の
特徴やポリシー

学習者の要望に寄り添う。市川町を好きになってもらう。
「すごい!」「そうなんや」「えらいね」の言葉と笑いがあふれる教室

－ 実践報告 －

あゆみ

1997年 市川町国際交流協会が誕生

2013年 日本語教室が開設

この11年間で実施した数は約250回、
関わったスタッフは延べ1000人を超え、
登録した学習者は約90名に及ぶ。

活動目的 の広がり

セーフティーネット

学習者の要望に応える

町で学習者から挨拶
日本語検定に合格
SNSで「欠席します」の連絡

- ・日本語検定
- ・小さな子どもや母親に向けたもの
- ・日本のことを知りたい→季節の行事
「お花見」「夏祭り」「紅葉狩り」
「芋煮会」「節分」
- ・地域の人と交流したい→イベント参加

今の課題

学習者の減少

学習者
の要望
の変化

- ・日本語を学びたい→スマホがあるから大丈夫
- ・知り合いも無く不安→SNSによる国ごとのコミュニティがある

これからの方向性

ふれあう →驚いたり、分からないことがいっぱい
→「なるほど」「そうなんだ」
→「同じ人間なんだ」

地域と外国からの人々を繋ぐ架け橋に

5	いろいろな形での日本語教室 相生市国際交流協会
活動の場所	相生市コープデイズ相生 3階 貸し会議室
団体／教室の特徴やポリシー	大人クラス、子どもクラスを別室に分けて、それぞれの特性に合わせて授業を行っています。

－ 実践報告 －

【活動日】

相生市国際交流協会では月2回、第1、3日曜日の朝10時00分～12時00分の日程で、日本語教室を開催しています。

【活動理由】

相生市在住の外国人住民が日常生活に困らない日本語力を身に付けること、また、日本人住民とコミュニケーションを図る目的で、日本語教室を開催しております。

【良かった点】

国籍や年齢を問わず様々な方と交流を図ることができ、日本語を教えるだけではなく、外国の文化を学び、新しい発見もできることです。

【難しい点】

各生徒の日本語レベルに応じて、教える内容が異なる点です。特に最近では生徒が増加し、ボランティアの先生が不足していることで、マンツーマンではなく、複数の生徒に教えていただくこともあります。

また、子どもクラスについては、日本語の勉強のみではなく、生活全般に対する指導をするべきかどうか、また、する場合はどの程度するべきか、課題があります。

【アピールポイント】

大人クラスと子どもクラスの教室を分けることで、集中して取り組めるようにしています。また、マンツーマン形式だけでなく、同国籍、同じ職場など、関係性がある生徒についてはグループとして教室型で開催している場合もあります。

子どもクラスについては、時間を1時間半に短縮して実施していますが、勉強のみでは飽きてしまうので、パズルやゲームなどを活用し、飽きさせないように工夫をいただいています。

6

日本語学習と生活をもっと楽しく！ NPO法人 加西市国際交流協会

活動の場所 加西市北条町 アスティアかさい 3 階

団体のポリシー 年齢・日本語のレベル・目標を問わず、集まり、学び合い、つながれる場所。

－ 実践報告 －

☆日本語学習支援

毎週日曜日(イベント日・祝日除く)

- ・マンツーマン・小グループ形式・・・個人の希望やレベルに合わせた学習で、年齢も子どもから大人まで様々です。
- ・クラス形式・・・一斉授業で会話や意見交換をおこない、日本だけでなく各国の文化についても学び合っています。



☆和文化体験

- ・書初め(1 月)
- ・お花見(3・4 月)
- ・浴衣体験(8 月)
- ・お茶席(9～11 月)
- ・新米おにぎりパーティー(10 月)



☆日本語ボランティア研修

7 月・12 月(年 2 回)

講師: 福井武司先生(神戸 YWCA 学院)



加西市内で日本語学習を希望する人が多様化したことと、より多くの市民を巻き込み、体験やつながりができる教室にしたいという思いから、協会主催の教室を始めました。

学習者が「楽しいです！」「また来たいです！」と言ってくれたときや、町中で学習者と支援者が挨拶を交わしているのを見たとき、この活動をしていてよかったと感じます。

一方で、学習者は仕事や日々の生活がメインのため、欠席・遅刻したり、学習を継続できなかったりすることも多く、学習内容はもとより支援者とのコーディネートやモチベーション維持なども難しく感じています。

加西市には産業団地があり、仕事や家族滞在で来日した外国人が多く居住しています。週に一度の教室ですが、集まり、学び合い、つながれる場となるよう活動しています。

他団体に質問してみたいこと：

- ・日本語ボランティア養成研修を行なうと、どのくらいの申し込みがありますか？
- ・学習者と支援者のコーディネートは、どのように行なっていますか？

7	つながる ひろがる 多読の時間 三田市国際交流協会／日本語サロンさんだ
活動の場所	三田市まちづくり協働センター 講座室等（三田駅前）
団体／教室の 特徴やポリシー	学習者の居場所や交流の場として、生活に必要な日本語の支援を行う。原則一対一。学習者の学びたいことを大切に、多様なニーズに応じた形で支援を行っている。月・木・土の3教室がある。教室運営は各教室で選出された役員が行っている。
－ 実践報告 － 1. 【活動】 土曜クラスの活動として「多読の時間」を実施している。月1回（原則第4土曜日）。原則自由参加。同時間に活動している「子どもにほんご教室 SKIP」の子どもも参加（15:00～15:30） 2024 年度から月曜・木曜クラスの学習者・支援者も参加可となった。 【実施イベント】 ①母語による絵本の読み聞かせ。 ②スライドで漢字にまつわるクイズ。 ③「世界のことで絵本を読もう」を市立図書館と共催（2023、2024年度） 2025年度も実施予定。 2. 実施に至る経緯・理由 - 英語多読の経験から「日本語多読」の可能性を感じた。 - 日常生活や仕事でも「読む力」が求められる場面が出てくる。 「読む」は意識して取り組まないとできない。 - 色々な学び方があっていい（学習スタイル、学習内容等） - 読む環境、場所、時間、本を提供。（自分で適切な本を探しだすのは難しい。読む習慣のない学習者もいる。一人で読むより皆で読む方が継続しやすい。） - 支援者の賛同を得るために、資料集めや提案書作成に時間をかけ、丁寧に理解を求めた。 - 多読の時、支援者の役割がわかるように「多読 Q&A」を作成した。 3. よかったこと - 学習者が参加を楽しみにしている。 「読む」ことへ学習者の理解が定着してきた。特に本のリクエストがあった時は嬉しい。 - 本の感想を話してくれる時もあり、楽しんで本を読んでいることが伝わってくる。 - 多読の協力者、理解者が増えた。 参考：NPO 多言語多読 ブログ https://tadoku.org/blog/blog/2023/12/28/14357 4. 課題 - 本の用意。本を保管する場所が狭いので、多読の日に図書館から借りた本を持参している。 - 支援者の理解を得ること。説明しても理解してもらえない支援者もいる。 - 多読の成果がでるまでに時間がかかる。 - 活動時間が短いので交流の場作りが難しい（子ども達は30分のみ参加） - 継続（支援者はすべてボランティアであるため）。 5. これから 「多読の時間」のイベントとして読んだ本の紹介、感想などを話す機会をつくる。 「多読の時間」の理解と周知を進める。	
他団体に質問してみたいこと：教室の運営方法 教室保有の本の管理・貸し出しについて	



8

明舞地域における日本語教室の在り方 NPO 法人 Oneself／Oneself 明舞日本語教室

活動の場所 兵庫県明石市松が丘・(神戸市垂水区狩口台)

団体／教室の
特徴やポリシー 「学習者もサポーターも明舞住民同士」
～ご近所さんの繋がりから地域住民として参画するまで～

－ 実践報告 －

教室の特徴①

「今日あのスーパー、たまごが安いで！」「昨日、バス停で会ったなあ。」
「そしたら、松が丘公園で集合やで。」



Oneself 明舞日本語教室で交わされる何気ない会話。実はこれこそ Oneself が最も大事にしてきたことである。

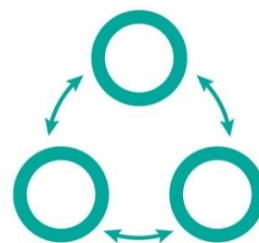
明舞教室においてサポーターも明舞地域住民であることを大切にしている。日本語教室の時にしか会えない関係性ではなく「ご近所さん」という関係性を大事にしている。

明舞地域にこだわるワケ

高齢になり「足腰が痛くてバスに乗れない」という理由で教室を辞めてしまう方がいるのを目の当たりにし、近所に教室を作ろう！と思ったのがきっかけ。そして日本語ボランティア養成講座も明舞地域で開催。「ご近所さん×日本語教室」というカタチを作り 11 年。

Oneself 流クラスレッスン

日本語教師×日本語サポーターがそれぞれの役割を担い教室を運営。
全体進行・タイムキーパー・文法指導を行うのは日本語教師。
漢字や表記指導・会話練習を行うのはサポーター。



多文化共生の発芽まで 3 年 3 か月

明舞祭開催前のミーティングである地縁団体の方が「中国残留邦人の皆さんに水餃子作ってもろたら？」と声があがり「そうやな」「ほんまや、作ってもろたらええねん」と。
そこから地域参画がスタートし、これまで地縁団体との交流を重ねてきた。
現在では恒例となった「明舞祭」に日本語教室で一丸となって教室活動の成果を展示。

* 今日は展示作品の一例を掲示

実践持ち寄り会 当日の様子

＼ 発表者による会場準備 ／

発表者と参加者が、
近い距離で情報交換しながらの
実践発表となりました



＼ 交流スペースや教材閲覧コーナーも盛況でした ／



各団体のみなさんと発表ポスター
 \ 個性豊かな活動報告をありがとうございました /

